

〈報告事項〉

十勝岳泥流跡地植生希少個体群保護林に
おける治山事業について

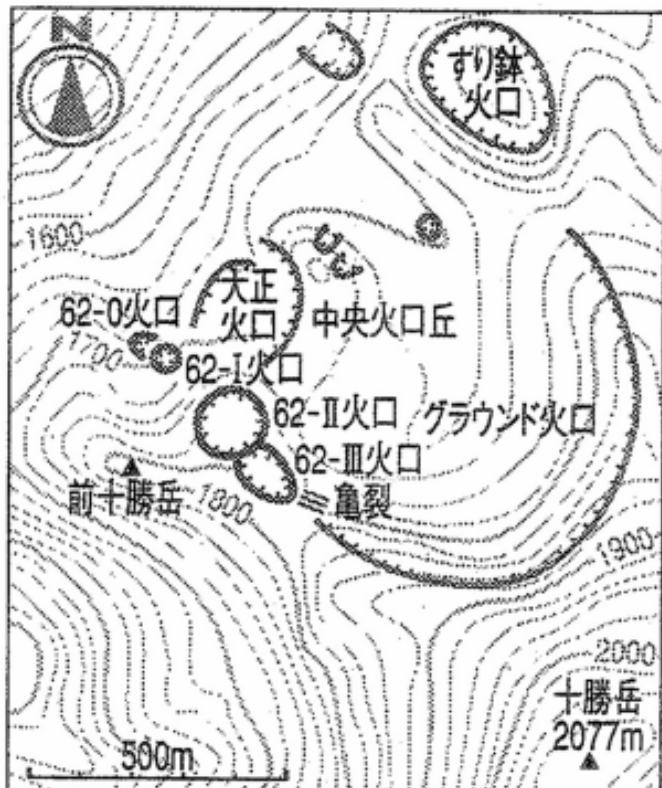
令和6年12月3日
北海道森林管理局

目 次

- 1 十勝岳治山事業における流木対策の検証に関する検討会・・・ 1～4

1 十勝岳治山事業における流木対策の検証に関する検討会－1

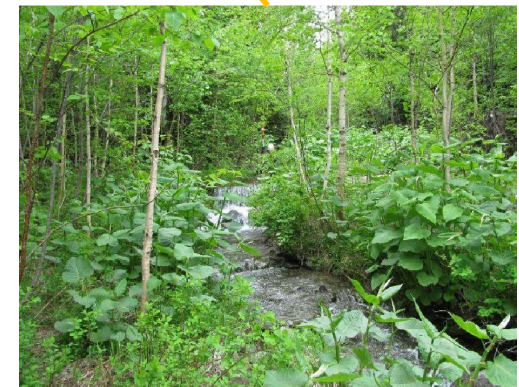
- 令和4年度十勝岳治山事業全体計画については、防災面での科学的知見を踏まえグラウンド火口等の周辺から噴火が発生し、大正泥流と同規模の融雪型火山泥流が発生するとの前提で、下流保全対象の安全を確保する観点から作成。
- 一方、同計画には、泥流跡地の再生林の保全を趣旨とする保護林内も対象としており、そうした観点からいくつかの対策案を検討したものの、検討プロセス及び内容の面で必ずしも十分とは言えない面もあった。
- このため、「防災と生態系保全の両立」を目指し、新たな検討の枠組みを設け、事業計画の点検・検証を行うこととした。



1962年噴火でグラウンド火口の西壁沿いにできた火口列
資料：災害教訓の継承に関する専門調査会報告書（1926十勝岳噴火）



資料：NTTデータの衛星画像



森林の現況

1 十勝岳治山事業における流木対策の検証に関する検討会－2

1. 検討会の趣旨・目的

美瑛町と上富良野町及び新得町に位置する活火山である十勝岳においては、1926年の噴火により発生した大正泥流により下流域に甚大な被害が発生し、1988～1989年にも噴火に伴う泥流が発生している。

近年の土石流は流木により被害が拡大する傾向にあり、十勝岳において融雪型火山泥流が発生した場合には、流木による甚大な被害が懸念されており、その対策が急務となっている。

一方で、当該事業対象区域においては、泥流跡地に自然再生した学術的に貴重な植生の保全も重要な課題となっている。

このため、防災と生態系保全を高度に両立させるべく、有識者及び地元関係者等からなる「十勝岳治山事業における流木対策の検証に関する検討会」を設置し、現行の十勝岳治山事業全体計画の検証を行った上で、北海道森林管理局に対して助言を行う。

また、北海道森林管理局はその結果を踏まえ、今後の十勝岳治山事業の具体の対策を講じるものとする。

2. 検討会委員

別紙

3. 保護林管理委員会との調整

保護林管理委員会委員に会議資料を事前に情報提供し意見を聴取。いただいた意見は、事務局が責任をもって検討会へフィードバック。

1 十勝岳治山事業における流木対策の検証に関する検討会－ 3

4. スケジュール

これまで3回の検討会を開催し、うち1回（2回目）は現地調査による開催。

5. 対策の方向性

十勝岳においては、大正泥流規模の融雪型火山泥流に備えて、地域住民等の生命・財産を保全することが重要である。

このため、森林管理局では、砂防事業や地域の警戒避難体制とも連携し、

- ・ 治山事業範囲において極力流木の流出を抑制すること
- ・ その際、当地の保護林の普遍的価値を踏まえ、当該保護林の伐採を極力回避すること

すなわち、防災と生態系保全との高度な両立を実現すべく、必要な治山対策を講じる考え。

6. 今後の予定、対応

第4回検討会を12月16日に開催。検討会資料については、準備整い次第、保護林管理委員会委員へ送付し、ご意見を聴取する。

1 十勝岳治山事業における流木対策の検証に関する検討会－ 4

別紙 十勝岳治山事業における流木対策の検証に関する検討会 委員名簿

氏 名	所属・役職等
笠井 美青	北海道大学 農学研究院 教授
厚井 高志	北海道大学 広域複合災害研究センター 特任准教授
渋谷 正人	北海道大学 農学研究院 特任教授
中川 光弘	北海道大学 理学研究院 特任教授
中村 太士	北海道大学 名誉教授
村上 亮	北海道大学 名誉教授
山田 孝	北海道大学農学研究院 特任教授（座長）
横山 隆一	日本自然保護協会 参与
角和 浩幸	美瑛町長
西海 正博	美瑛町観光協会会長
片岡 勝裕	北海道建設部土木局 河川砂防課 課長補佐（砂防）
永澤 幸	札幌管区気象台 気象防災部地域火山監視・警報センター火山 調査官
松澤 昌英	北海道開発局 建設部 河川計画課 河川計画専門官

（敬称略）